

宗谷管内におけるトドマツの造林適地

問 宗谷管内のトドマツ造林地には不成績な林分も多くみられます。あらたにトドマツを造林する場合、どのような立地条件に注意して植栽したらよいでしょうか。

答 トドマツは全道に天然分布している樹種ですから、条件さえよければどこでも成林可能です。しかし、宗谷管内は全道的にみて有数の強風地帯であるうえに、土壌も透水性に乏しい重粘土地帯が多く、林木の生育にとっては条件の悪い地方です。特に強風は林木の生長を著しく阻害し、不成績の主な原因になっています。

御質問のトドマツは、造林地の実態調査によると他の造林樹種以上に風の影響を受けやすく、また、凍・寒風害にも比較的弱い樹種とされています。したがって、トドマツを造林する場合、もっとも気をつけなければならないのが風の影響です。天北地方に関しては既に風力度分布図が作成されていますので、これを活用してみましょう。

風力度分布図をみてみますと、風の強さを強、中、弱と3区分しています。この内、強風地帯は経済林的な取り扱いが難しく、むしろ防災林を仕立てる地域です。したがって、中風および弱風地帯のトドマツ造林の考え方を述べてみましょう。

中風地域は、稚内市、豊富町管内を中心に広く分布しています。中風地域内にも立派なトドマツ造林地がありますが、保護林帯が既に造成されていたり、沢筋の風の影響が比較的少ない場所を除いては、経済林としてのトドマツ造林は見合わせるべきでしょう。

一方、弱風地域の民有林は宗谷丘陵地帯の国有林をはさんで日本海側、オホーツク海側に分布しています。風は日本海側から吹く偏西風の影響が特に大きいとされています。従って、日本海側では弱風地域でも西斜面は保護林帯の造成を行う等、風の影響を軽減するための努力をおこなわないようにする必要があります。東斜面およびオホーツク海側は全道の平均値より生産力は低いが30年生で上層高12m前後は期待でき、風衝害による不成績造林地にはならないと考えられます。西斜面では約2m前後は低くなるでしょう。

以上述べましたように、風の強さの地域区分がトドマツ造林の適地のめやすとなります。ただし、他の注意すべき事項としてトドマツは霜害を受けやすい樹種です。霜の発生しやすい地形には十分注意する必要があります。また、最近、内陸部の多雪地帯にはトドマツ枝枯病の発生が認められます。従って、附近にトドマツ枝枯病の激害林分があれば、トドマツの造林を行ってはいけません。

一方、重粘土地帯の造林には、リッパー地拵えが非常に有効なことがわかっています。これらの方法を積極的に取り入れることにより、造林成績向上をうながすことになるでしょう。

(道北支場 阿部信行)



図 風の強さの地域区分